

◎礼拝説教：2020年2月9日

◎説教者：中村準一 牧師

◎タイトル：光の子らしく歩みなさい

◎今日の聖書：エペソ人への手紙5章8節～10節

8あなたがたは、以前はやみであったが、今は主にあって光となっている。光の子らしく歩みなさい- 9光はあらゆる善意と正義と真実との実を結ばせるものである- 10主に喜ばれるものがなんであるかを、わきまえ知りなさい。

◎宣教

今回の聖書箇所で鍵となる言葉は、「暗やみ」と「光」です。この二つの言葉に注意を向けて、8節を読んでみます。「あなたがたは、以前は暗やみであった。しかし、今は、主にあって光となりました。」とあります。以前は「暗やみ」、今は「光」、それは全く相反する世界です。「以前は」と、「今は」という対比によって、現在の救われた私たちの姿が描きだされています。救われる以前の私たちは、暗やみの世界、つまり、罪に支配されていた者でしたが、今は「主にあって」、イエス・キリストに救われ、「光であるキリスト」の支配下で生きる者とされたのです。パウロは次にこう書いているのです。「光の子ども（神の子ども）らしく歩みなさい」と。具体的にはどうゆうことでしょうか。パウロは三つの言葉で、光の子として実を結ぶ歩みを明確に述べています。それは、善意・正義・真実であると。そのためには、主に喜ばれること、つまり、光の子として歩むにはどうすればよいのかを、たえず見分けして歩むこと。なぜなら私たちはこの世においては、絶えず暗やみの影響下にさらされているからです。ですから、わたしたちは主に喜ばれることは何なのかを、見極めながら歩むことが大切なのです。この世の人々は、「神の光」を直接見ることはできません。ですから、光の子らしく歩む私たちクリスチャンの姿を通して、また教会を通して、私たちは「神の光」を照らしていくことが大切です。